

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇概況

- ◆ ECB理事会では、主要政策金利は据え置きとなった
- ◆ 金融市場ではインフレ警戒感が高まっているが、ラガルド総裁は一時的要因によるもので、2022年にかけて落ち着くとした
- ◆ 金融市場ではECB理事会後も2022年利上げ観測がくすぶる

✓ 10月28日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。**

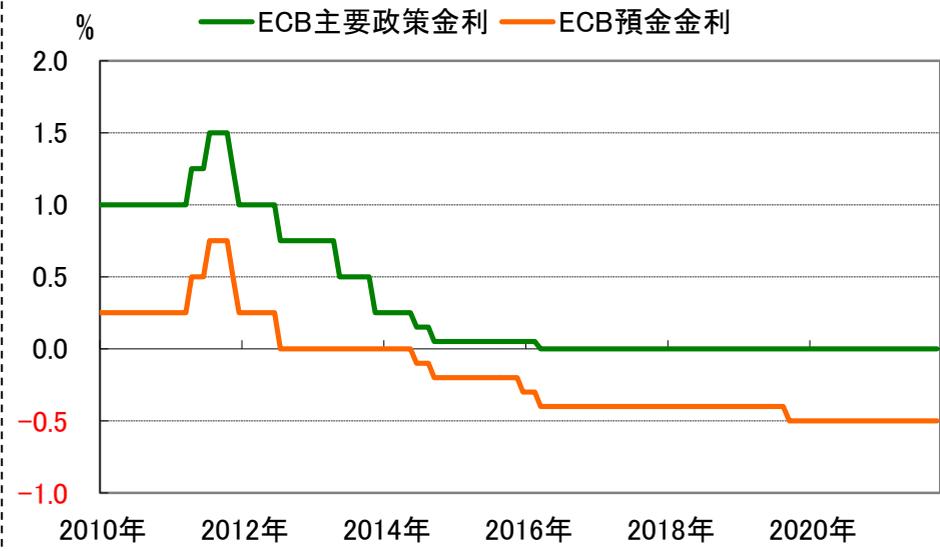
✓ **今回パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)について、総額(1兆8500億ユーロ)を維持。期間については22年3月末まで、必要ならばそれ以降まで継続するとした。**APP(資産買い入れプログラム)及びTLTRO-Ⅲ(条件付き長期リファイナンスオペ)の規模及び期間については維持された。

✓ フォワードガイダンス(将来の金融政策方針)については、「(1)インフレ率が予測期間(現在は21-23年)の終わりよりもかなり前に2%に達し、(2)残りの予測期間は持続的に2%に達すると予想するまで、(3)また基調的なインフレ率が中期的な2%の物価安定と一致するよう十分に進展していると判断するまで、現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する」との文言が据え置かれた。

✓ ラガルド総裁は記者会見で今回の会合のテーマは「インフレ、インフレ、インフレ」であったとコメント。インフレ率についての結論は、①パンデミックによる供給制約②エネルギー価格の上昇③ドイツの消費税減税終了が主要因であり、2022年にかけてこれらの要因は徐々に後退するとした。先週末のパウエルFRB議長と同様、**インフレ率の上振れが長期化していることは認めつつも、楽観的な見通しを示した。**

✓ 金融市場ではラガルド総裁のコメントにもかかわらず、ECBによる2022年の利上げが依然として意識された状況にある。ECB理事会を受けて、ユーロ高が進行し、欧州金利も上昇基調が継続した。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し (9月時点)】

	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	+5.0	+4.6	+2.1
6月時点の見通し	+4.6	+4.7	+2.1
HICP(消費者物価)	+2.2	+1.7	+1.5
6月時点の見通し	+1.9	+1.5	+1.4

前年比、%

【出所】ECB, Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。